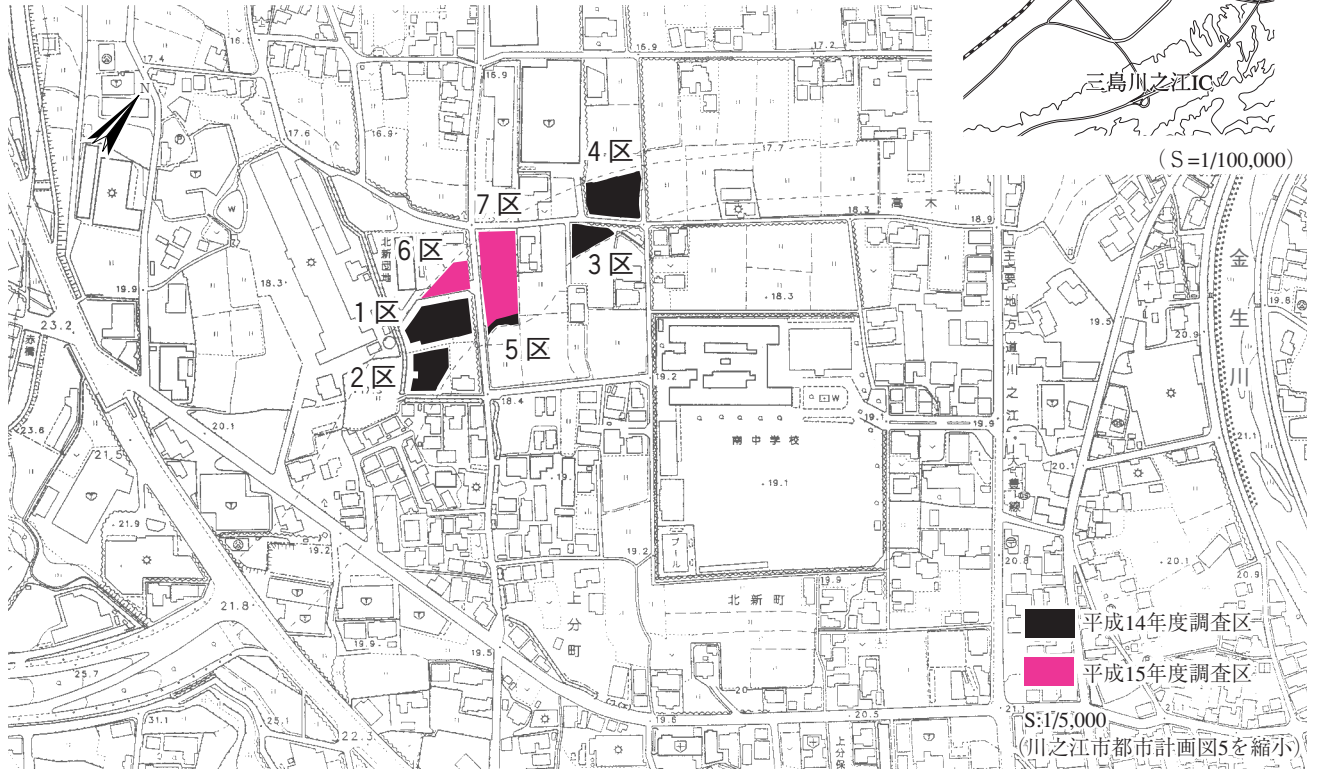
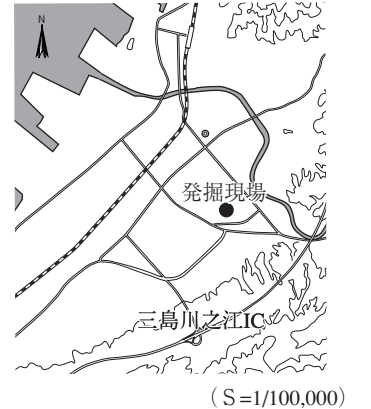


事業名 一般国道11号川之江三島バイパス埋蔵文化財調査  
 委託者 国土交通省四国地方整備局  
 受託者 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター  
 場所 川之江市上分町  
 調査面積 約2,000m<sup>2</sup>



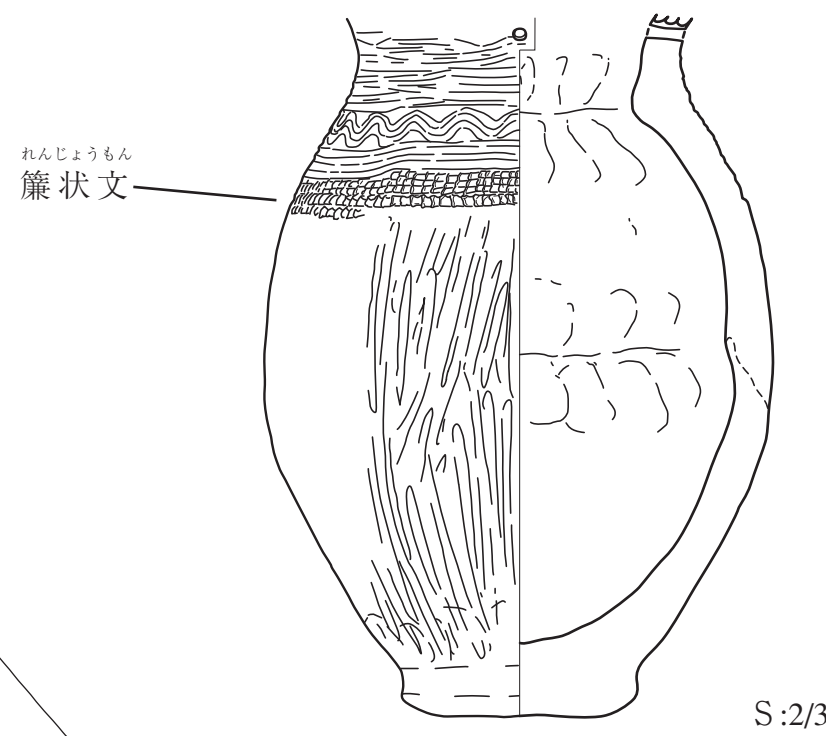
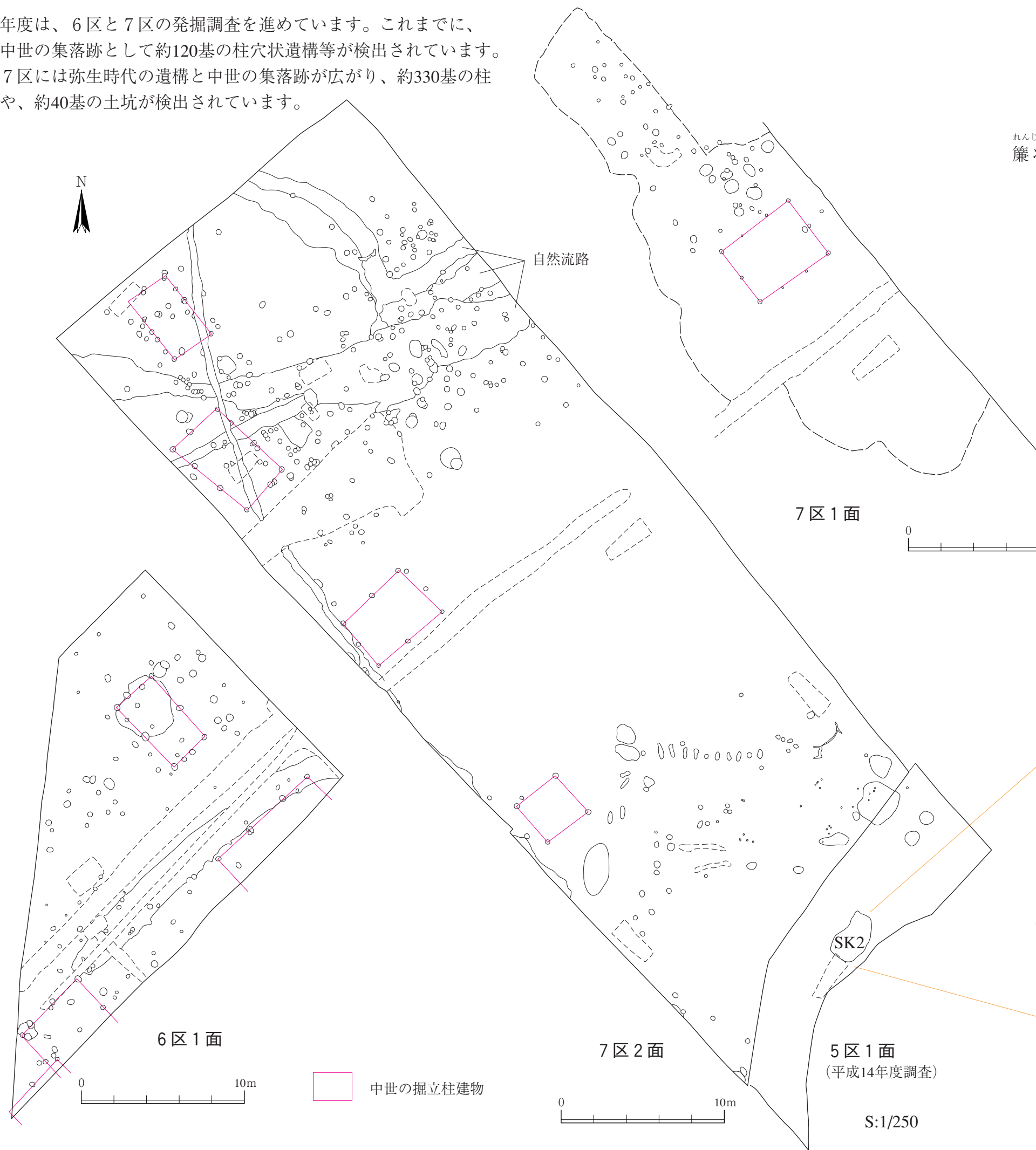
## 調査の概要

財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センターでは、平成13年度から一般国道11号バイパス建設に伴う埋蔵文化財調査として、川之江市上分地区において随時試掘調査を実施し、関係機関と協議のうえ発掘調査が必要な範囲について平成14年度から発掘調査を進めています。

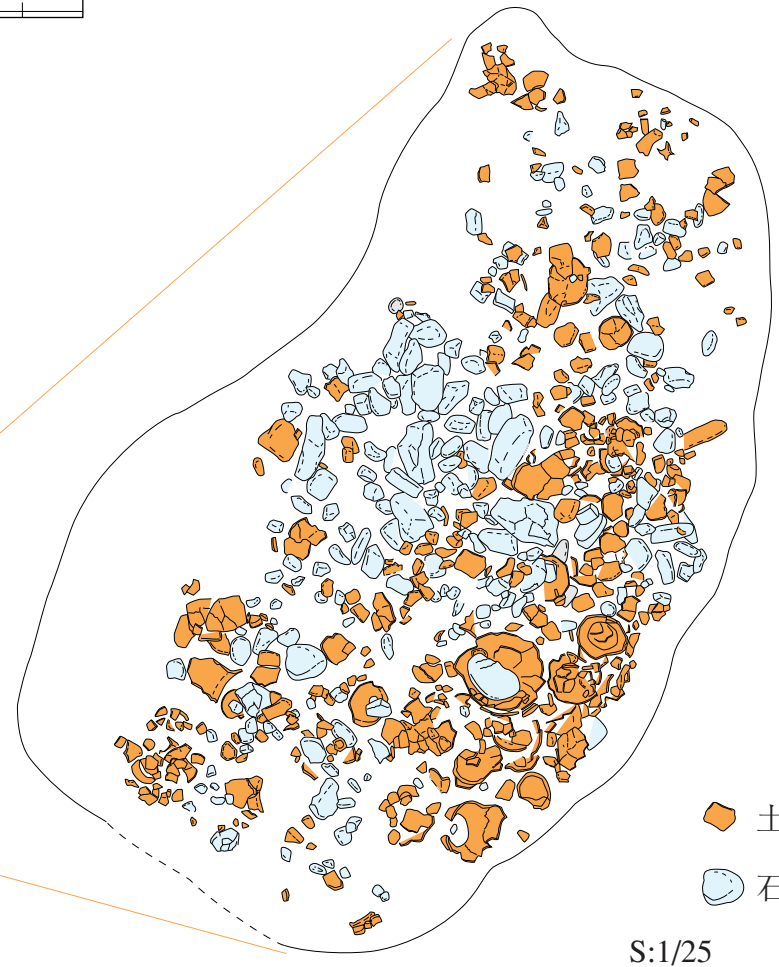
平成14年度の発掘調査では、弥生時代中期～中世の遺構が検出されています。そのうち、1・2区では弥生時代中期及び後期の遺構と、中世の集落跡が広がっており、弥生時代の遺構面からは徳島県や高知県で出土する土器の文様（簾状文）をほどこされた中期の壺も出土しています。中世の集落跡では掘立柱建物が見られ、建物の方位は現在の宇摩平野東部の条里地割りに近いものでした。また、2区南西側では低湿地跡に営まれたと思われる中世の水田面から、人や牛馬のものとみられる無数の足跡も検出されています。5区では弥生時代中期と後期の遺構が検出され、弥生時代後期の集石遺構からは多数の土器が出土しています。

3・4区は中世の集落跡で、あわせて570基もの柱穴状遺構が検出されています。それらからは現在7棟の掘立柱建物を確認されており、いずれの建物もほぼ現在の地割りに沿うものでした。また、3区と4区の間には集落を区画する溝（深さ約0.5m）が設けられていました。

平成15年度は、6区と7区の発掘調査を進めています。これまでに、6区では中世の集落跡として約120基の柱穴状遺構等が検出されています。また、7区には弥生時代の遺構と中世の集落跡が広がり、約330基の柱穴状遺構や、約40基の土坑が検出されています。

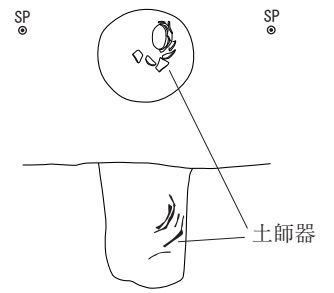
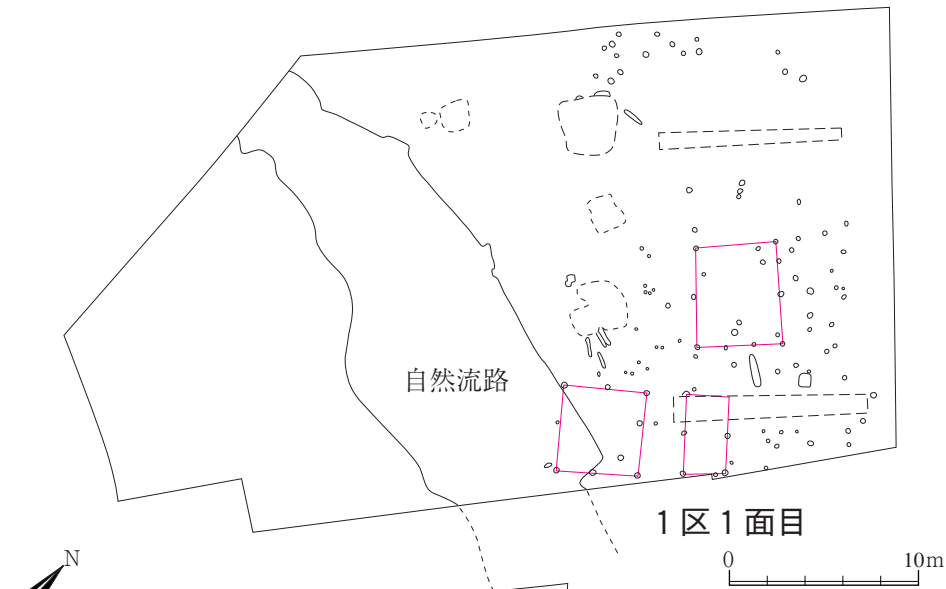


1区出土の弥生時代中期の壺

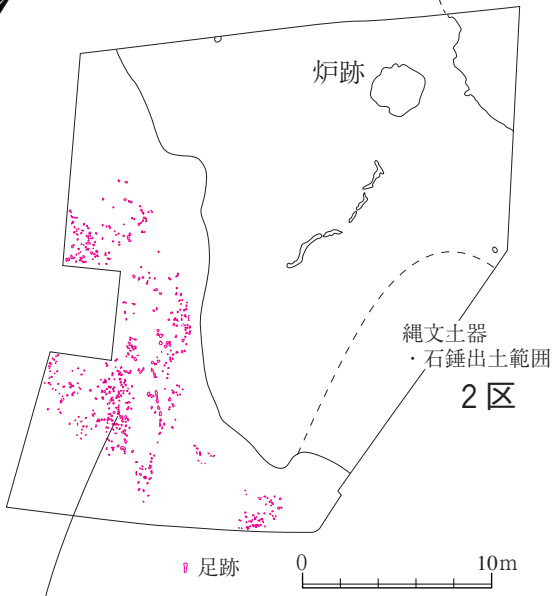


5区1面弥生時代後期の集石遺構 (遺物出土状況)

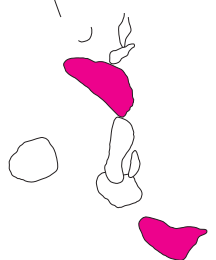
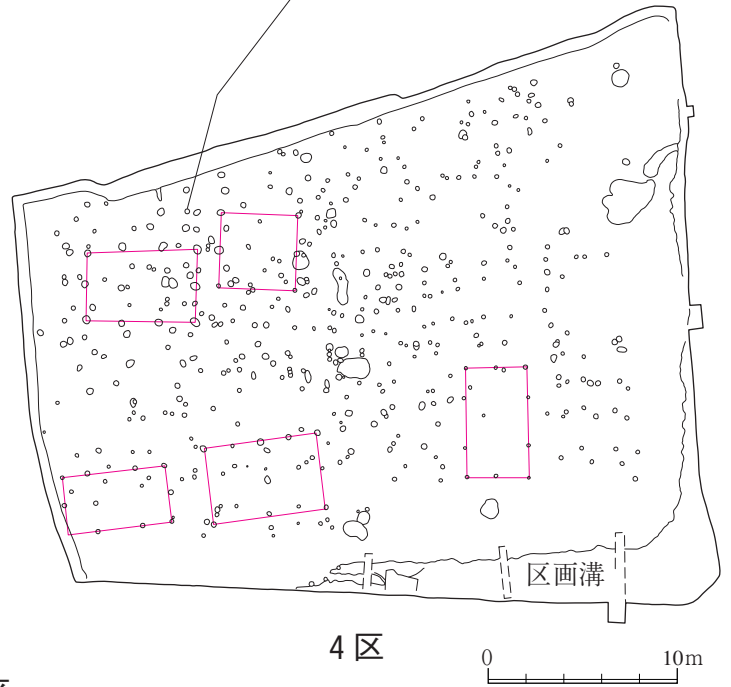
S:1/250



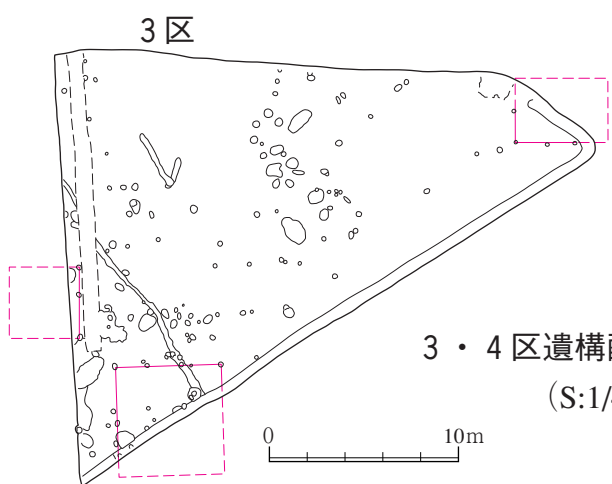
4区柱穴状遺構遺物出土状況  
(S:1/20)



1・2区遺構配置図  
(S:1/400)



S:1/40  
2区の人の足跡 (上が左・下が右)



3・4区遺構配置図  
(S:1/400)